

泌尿紀要

Acta Urol. Jap.

Vol. 28, No. 10

ACTA UROLOGICA JAPONICA

October 1982

泌尿器科紀要

第28巻 第10号 1982年10月

泌尿器科領域における Basic Fetoprotein の意義

—おもに睾丸腫瘍 Marker としての有用性—永田 均・ほか...1213

副腎手術例の検討佐藤 和彦・ほか...1221

閉塞性腎疾患に関する臨床的検討

第1報: 閉塞性腎疾患における Furosemide 負荷レノグラムの

有用性について村山 鉄郎・近藤猪一郎...1229

腎阻血手術に対する Coenzyme Q₁₀ の応用増田富士男・ほか...1237

排尿障害に関する臨床的研究

第3報: 尿道内圧記録のさいの媒体としての水と炭酸ガスの

比較検討水尾 敏之・ほか...1245

褐色細胞腫の1治療例: メトクロプラマイドと

ラベタロールの有用性について佐藤 和彦・ほか...1251

化膿性単純性腎嚢胞の1例平野 章治・ほか...1257

先天性腎性尿崩症による Polyuric Megalocystis の2例川口 光平・ほか...1263

尿管癌の2例細木 茂・ほか...1271

新生児複合性睾丸脱出症の1例木野田 茂・ほか...1281

副睾丸 Papillary Cystadenoma の1例中野 康治・ほか...1285

前立腺癌の化学療法

Peplomycin による前立腺癌の組織学的変化の検討黒田 昌男・ほか...1291

前立腺肥大症の Gestonorone Caproate (SH 582, Depostat) による治療について

—臨床成績と下垂体-性腺内分泌機能におよぼす影響—吉田 修・ほか...1301

複雑性尿路感染症に対する Netilmicin の治療経験吉田 光良・ほか...1315

奈良県立医科大学泌尿器科学教室における1979年の臨床統計岡島英五郎・ほか...1325



Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M.D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,

Kyoto University, Kyoto Japan 606

京都大学医学部泌尿器科学教室

禁帯出

到着後1ヶ月間

編 集 後 記

医者になりたいから医学部へきたということは当然のこととと思っていた。ところがいまは高校の成績が良いからとか共通一次試験の点数が良いから、先生や両親の勧めで医学部へきたというのが多い。この点について最近二つの対照的な意見をきいた。

医学部へ進んだ理由が高校の成績や共通一次の点数が良いということで、自分自身で良い医者になろうという主体的なものではない。そのような人間をいくら教育しても良医が育つはずがない。入試制度を改めて医師になる適性をもった人間を選抜すべきだという意見が一つである。

もう一つは、そういう人間を良医になるようにするのが医学教育である。医師の適性など高校を出たばかりの若いものにそなわっているはずがないという意見である。

皆さんはどうお考えでしょうか。

(O. Y.)

購 読 要 項 (1982年6月改定)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料5,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込む。

投 稿 規 定 (1982年6月改定)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 長さは制限しないが簡潔にする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (i) 原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名の順に和文、英文で併記する。下段に筆頭著者名(山田：または山田・ほか：)と、2語(例：前立腺がん・PSAP)からなる running title および5語(英文)以内の key words を付す。
 - (ii) 英文抄録：ダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, $^{\circ}$ C, pH などとする。
 - (5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はト

リミングする。説明は和文、英文を問わず Table 1., Fig. 2. などとし、なるべく英文とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。とくに図・表は必ずタイプまたは楷書で清書し、誤りのないことを確認する。様式については本誌の図・表を参照する。

- (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。和文は楷書で、欧文はタイプする(例：山田^{1,3,7)}, 田中ら^{1,3-10)}によると)

雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名、巻：最初頁～最終頁、発行年

単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年

- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部がおこなう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。
- (9) 編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。

3. 掲 載

- (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
- (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後におこなう。
- (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療器具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。

4. 別 刷

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

編集委員： 石 神 襄次	前川 正信	宮崎 重	新谷 浩
園田 孝夫	友吉 唯夫	桐山 富夫(副主幹)	吉田 修(主 幹)

泌尿器科紀要 第28巻 第10号	1982年10月25日 印刷	1982年10月31日 発行
発行 吉田 修	顧問 加藤 篤 二	発行所 泌尿器科紀要刊行会
〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)		
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入		
